

こどもレンズ・ワークシート

団体名 _____ 名前 _____

本業のどこにこどもとの接点があるかを考えるシートです。各マスの薄い文字は、自分に問いかける質問です。思いついたことを書き込んでください。

業務の流れ		こどもを守る こどもへの害を避ける、小さくする Child-Screened	こどもに良いことを 事業のやり方を通じて、こどもの利益を高める Child-Inclusive	こどものために こどものための事業や解決策をつくる Child-Centered
顧客・商品・サービス	1 仕入れ・調達 原則2、7	材料や商品の仕入れ先で、こどもが働かされていたり、こどもの健康を害するものを使っていたりしないか	仕入れ先を選ぶとき、こどもや家族を大切にしている会社を優先できないか	仕入れの仕組みそのものを、地域のこどもの役に立つ形に変えられないか（例：学校やこども食堂と組んだ共同購入）
	2 つくる・提供する 原則5	自社の商品やサービスを、こどもが使ったり口にしたりしたときに危なくないか	今の商品やサービスを、こどもや子育て家庭が使いやすいように少し変えられないか（例：量、大きさ、分かりやすさ）	こども向けの新しい商品やサービスをつくれな
	3 伝える・売る 原則6	チラシ、広告、店頭の売り方が、こどもをあおったり、親を不安にさせたりしていないか	商品の説明や案内の仕方で、こどもや親が安心して選べるように工夫できないか	こどもや親に向けた新しい売り場、売り方、情報の届け方をつくれな
	4 場所・施設・安全 原則4、8、9	お店、工場、現場、駐車場などで、こどもがけがをする危険や、災害時の備えの抜けはないか	こども連れでも来やすい、過ごしやすい場所にできないか（例：トイレ、通路、待ち時間）	自社の場所や設備を、こどもの居場所や体験の場として開けないか
従業員と家族	5 人を雇う・育てる 原則3	若い社員や実習生に、長時間労働や危険な仕事をさせていないか	社員が子育てと仕事を両立しやすい仕組みを増やせないか	こどもや学生が仕事を体験したり、将来の仕事を知ったりする機会をつくれな
地域社会	6 地域とのつながり 原則10	自社の事業（騒音、交通、排水など）が、近所のこどもの暮らしに迷惑をかけていないか	本業の技術や設備、人の力で、地域のこどもの取組（学校、行事、こども食堂など）を手伝えないか	地域のこどもが困っていること（居場所、学び、移動など）を、本業で解決する事業をつくれな

左の帯は、こども家庭庁「こどもとともに成長する企業」構想の3つの接点との対応です。原則番号は「子どもの権利とビジネス原則」（ユニセフ、国連グローバル・コンパクト、セーブ・ザ・チルドレン、2012年）です。
チャイルド・レンズ投資の考え方を、企業の事業を見直す視点としてケイスリーが独自に整理したものです。投融資の評価に利用されるものではありません。運営：ケイスリー株式会社